



# LOVE OUR OWN BRETHREN

## News Letter Vol.2

April 2005

### —目次—

- ◇ フィリピンからご挨拶 (P1)
- ◇ 骨髄移植 募金のお願い (P1)
- ◇ ワークキャンプ報告 (P2)
- ◇ 骨髄移植 募金の詳細 (P3)
- ◇ 夏季ワークキャンプ情報 (P3)
- ◇ 日本語教師インタビュー (P4)



### —LOOB について—

ロオブは 2001 年フィリピン政府に非政府組織 (NGO) として法人登録しました。ビサヤ圏パナイ島のイロイロ市を拠点に、フィリピン人と日本人の有志により国際交流・協力系のプログラムを実施。

- ワークキャンプ開催
- 日本語ボランティア
- 学資援助
- 養豚
- 古着・文房具の寄付
- フェアトレード

LOOB はこのような活動を通じて、フィリピンと日本の草の根的な相互理解を促進し、物的・人的支援の提供でコミュニティを支援しています。途上国のために何かしたい、自己成長につなげたいと考えている方、私たちと一緒に活動しませんか？

LOOB Inc.  
 Lot23 Block15,  
 NHA2 Mandurriao,  
 Iloilo city 5000, Philippines  
 Tel/Fax : 63-33-321-2040  
 電子メール [loob@skynet.net](mailto:loob@skynet.net)  
 H P <http://www.loobinc.com/>

### 【フィリピンからご挨拶】

皆さん、こんにちは！ LOOB がお送りするニュースレター第2号です。昨年3月に第1号を作成した時はどれくらいの頻度で発行できるか未知数だったのですが、やはり手が回らず1年以上たってしまいました。スイマセン。

さて、LOOB は今年4月で創立4年目を迎えました！「二つの国の若者が共に汗を流し、学び合い、感動を共有できる」をモットーに始めたワークキャンプも2月で通算 10 回を迎え、多くの人が共鳴してくれました。このほか現地で継続的に実施している養豚プロジェクトやチャイルドスポンサー事業も順調に進んでいます。日本とフィリピンの支援者に支えられ、ここまで来ることができました。本当にありがとうございます！これからも LOOB の活動を応援していただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

### 【スタッフ急逝のお知らせ】

去るイースターの 3 月 27 日、LOOB にとってかけがえのない男性スタッフが、体調不良のところ急逝いたしました。ボンボン・アモというニックネームでワークキャンプではプログラム・リーダーや司会者として活躍していたので、日本人キャンパーの皆さんも印象に残っているかと思います。

山をこよなく愛し、どんなに困難なときにもユーモアのセンスを忘れず、一緒にいる人を必ず笑顔にしてくれる偉大な人でした。38 歳にして働きながら大学の修士課程で勉強していた彼は、いつか海外でボランティア活動をしたと言っていました。「人生は楽しむためにある」と断言し、何気ない一瞬からユーモアや人生の意味を拾い出す才能を持っていました。今という瞬間はもう二度と戻らない。だから明日のために苦労を重ねるよりは、今を大切に生きていきたい、そんな哲学を教えてくれた彼でした。

Walking with Jesus is the best adventure, doing GOD's will is the best achievement, having Jesus as companion is the best source of happiness!

彼が残してくれた宝物を大切に LOOB も前進していこうと思います。

### 【募金のお願い】

急性骨髄性白血病と診断されたクラレンス・カルボン君 (10 歳) の治療のために、日本から広く支援金を募ることになりました。募金についてはいろいろな意見が出るかと承知しています。私も悩みました。でもやっぱり体裁はどうであれ正しいと思うことをしようと決めました。クラレンス君の命の綱をどうぞ支えてあげてください。この切実なお願いに共感して頂ける方は、P3 で詳細をご覧ください。

募金額はいくらでも構いませんのでご協力よろしくお願いいたします。



LOOB 代表 小林 幸恵



## 第2回 LOOB & ラブどれん合同キャンプ 2005年2月5~12日 in ギマラス島



第1号のニュースレターでも紹介した関東の学生団体「ラブどれん」さんがイロイロに戻ってきました！リーダーの木南くんを中心に、海外での国際交流を自分たちの企画で実施するパワー溢れるグループです。これまで、タイ、フィリピン、インドで精力的な活動を行ってきましたが、LOOBとのタイアップが一番成功したと言ってくれ、今回の再訪となりました。

今年は1つの場所に滞在してじっくり楽しむワークキャンプ型となり、昼はワーク作業や小学校での交流を行い、夜にはホームステイ先に帰るというプログラム。小学校ではマツケンサンバを踊り、児童の一躍アイドルに！ホームステイの家族を招待してのパーティでは、男性陣が奇想天外なおカマ・コンテストを披露。みなのお化粧姿とダンスにみな大爆笑でした。

参加者はラブどれんさん側が10名(男5名女5名)、LOOB側からキャンパー4名(男2名女2名)、スタッフ・村人約20名が参加しました。

### キャンプ日誌

#### 理佳子ちゃん(21歳)

「私のホストファミリーはすごく優しく子ども達も本当にいい子で、兄弟で助け合っているのがすごく伝わって来た。父親はいなく母親は中国に出稼ぎに行っていていなかったけど子ども達は寂しいなど不満一つ言わずに協力しあって生活している。私は毎日一生懸命お化粧して綺麗な洋服を着て、欲しいものは沢山持っていますが、この子達のような優しい心は持っていない。毎日エゴとの戦い。そう思ったら何だか情けなくなった。本当の幸せって何なのだろう。決して物があることではないけど明確には分からない。心という漠然とした答えしか思いつかない…。驚いたのは食事の前のお祈り。初めはいただきますのような決り文句だと思っていたら違った。食べ物や自分の置かれている状況、家族みんなと一緒にいられる事にも感謝する。日本だと全ての事に感謝する機会はなかなかない。この積み重ねがみんなの暖かい心を作っているのだと感じた。」

このキャンプに関わった一人一人が大きな感動を得ました。またいつか戻ってきてくださいね！

### 第10回ギマラス島キャンプの参加者紹介

個性溢れる8名が盛り上げてくれました！

- \* 麻子(上智大学。5回目参加、の割には超マイペース。卒業でタラバハン村としばしお別れです)
- \* 風友香(岩手県立大学。東北から一人で参加！ダンスが上手でピノイにモテモテでした)
- \* 千代(日本大学。3回目の参加。プログラムでリーダーとしてがんばりました☆)
- \* 友梨(立命館大学。初参加ですがテキパキとリーダーを務めていました)
- \* 陽平(早稲田大学。唯一の日本男児として目立ちましたね。おカマじゃなくおカメが可愛かった)
- \* さやか(立命館大学。皆が暑さにバテている時も一人でワークを続けるがんばり屋さん)
- \* 沙良(慶應義塾大学。NY 帰りのアメリカン・ジョークでフィリピンのオヤジ・ギャクと対決！)

皆さん、お疲れ様でした☆

ギマラス島タラバハン村でのワークキャンプも今回で通算7回目となりました。今回は、村のナナイ(お母さん)達が運営している養豚場の貯水槽を作りました。さすがフィリピンの真夏だけあって日中は暑かったですね。この貯水槽は雨季になったら雨水を蓄え、豚の世話に使います。これまで井戸から水を運ぶという重労働をナナイや子ども達がこなしてきましたが、養豚場のすぐ横に水道ができて労働の負担がとて減ります。ご協力ありがとうございました。



## 白血病治療の募金のお願い

Trials are not the reason to give up, but a challenge to improve ourselves.

Difficulties are not an excuse to back out, but an inspiration to move forward....

クラレンス・カルボン君。1984年8月11日生まれの10歳。フィリピン・イロイロ市在住。今年2月に急性骨髄性白血病(AML)と診断され、化学治療中。この病気は、早期の全身状態が良好なうちに発見されれば、完全に治る可能性が高いとされています。

クラレンス君はこれまで2回の化学治療(全9回の予定)を受け、寛解(かんかい:病気そのものは完全に治癒していないが、症状が一時的に軽減した状態)に入っています。両親はその治療のため周囲から80万円の借金をしました。全9回の治療を終了するには400万円以上が必要で、また骨髄の提供者とマッチすれば骨髄移植も行いたいと考えていますが、これにも約400万円かかります。両親はどちらも公務員で月給は二人あわせて4万円弱。息子の命を助けるためなんとしても治療を続けたいと考えているのですが、これまでの2回の化学治療でお金は底をつき、借金ができない状況です。財政的にも精神的にも窮地に追い込まれています。

フィリピンは国の保険制度が整っていないため、大病の人や金銭的余裕のない人にそのしわ寄せが来ます。医療費が高いため、治療を諦めて、静かに死を待つという話もよく聞きます。しかしクラレンス君はまだ10歳なのです。これからいろいろなことを学び、恋をしたり、社会に出たり、楽しいことがたくさんあるはずの子供です。弱っていく子どもをただ見守るだけ...という状況は本当に辛いです。クラレンス君の両親はフィリピン内でも募金をお願いしています。LOOBは日本の皆様にも寄付を呼び掛け、全額をクラレンス君の治療に役立てたいと考えています。1口1,000円から受け付けていますのでぜひご協力頂ければ幸いです。

両親からのメッセージ: Our son Clarenz is just turning eleven this year and we pray as his parents that even with this obstacle related to his health, that he may have more fruitful years to come. We have to be always firm in our faith that he may someday overcome this and your most benevolent donations would greatly help in assuring that future, for our son, Clarenz, and in a way for all those who love and care for him as well. Thank you very much and may our Lord God bless you for your

振込先 郵便局 記号 19910 番号 6804871 LOOB INC 小林 幸恵

## 夏季ワークキャンプ参加者募集！！

### 参加者の声

フィリピン人の方々との交流を通して、両国の「歴史・文化」、「社会問題」、「慣習」など、伝統からリアルタイムまでの異文化交流ができた。国という枠を超えた「恋愛・結婚観」、「現実や将来に対する向き合い方」などの話題を通じて、人々の価値観に刺激を受けることも出来た。生まれた国が違うという表面的な違いだけでなく、もっと内面的な部分での違いや共通感を持てたことは、私にとってすばらしい経験となったばかりでなく、国や現状が違っても同じ感覚を持ち、同じように日々に向き合っている人がいるという事でこれからへの強い励みとなりました。

LOOBのワークキャンプでは、農村部にステイして村人と共に井戸掘りや養豚などのコミュニティ開発を支援します。

この夏、あなたも一緒に活動してみませんか？



第11回ギマラス島ワークキャンプ 2005年8月1日～8月8日

第12回パナイ島ワークキャンプ 2005年8月19日～8月28日

第13回ネグロス島ワークキャンプ 2005年9月2日～9月14日

参加費: 6～8.5万円(現地集合)、定員: 各15名

# 日本語教師インターン

## 奮闘中の裕子さんにインタビューです！

来比から2週間たった裕子さんにインタビュー！

昨年9月のネグロス島キャンプに参加した松本裕子さん(22歳)が、日本語教師プログラムに参加中です。大学を卒業したばかりのフレッシュな裕子さん、4月は一般で、5月は介護士学校で授業する予定です。

日本語教師は随時、募集しています。裕子さんのように現地でホームステイしながら日本語教育に関わってみたい方、奮ってご参加ください！20歳～65歳の日本文化紹介に興味のある方。1～3ヶ月。詳しくはHPをご覧ください。(高校生の生徒達に寿司作りを教えた時の写真です)。



一般クラスでは18名の小学・高校生に日本語や日本の文化を教えました。現在は介護士学校で20名に教えています。

◇実際にフィリピン人に教え始めてどうですか？

——日本語を教えるのはこれが初めてだったので毎日が手探りの状態です。授業の準備は大変ですが、こちらの教え方やテンションで生徒の反応が変わってきたり、生徒とのやり取りから学ぶことがたくさんあって、教え・教えられるのが教師の醍醐味だなと感じています。LOOB顧問のみさ子先生が行っている大学での授業を参考にしたり、適格なアドバイスをもらったので葛藤しながらもなんとか一般クラスの授業を終えることができました。

◇ホームステイやイロイロ市での生活はどうですか？

——昨年ワークキャンプで滞在した村は田舎だったのですが、イロイロ市はほとんど日本の生活と変わらずホームステイの家族も親切にしてくれています。ジープの乗り方も少しずつ覚え市内の移動もできるようになりました。ただどこにいてもトイレが日本と違う…。トイレはCR(Comfort Room)といいますが、便座がないのであまり落ちつける空間ではないですね(笑)そういった感覚の違いも楽しんでいます。

◇フィリピン料理は大丈夫ですか？

——はい！醤油ベースの料理が多くて日本と同じようにおいしく頂いています。先日バッチョイというイロイロ名物ラーメンを食べたのですが、これが本当においしかった！あと竹の子をココナツミルクで煮た料理も気に入っています。ホームステイ先では肉料理が中心なので外では野菜を取るよう心がけています……。

◇余暇の時間はどのように過ごしていますか？

——まだ授業に慣れていないので大半はクラスの準備に費やしています。しかし5月はフィエスタ(お祭り)が多いということで、先日は第2の故郷(?)パタッグにも遊びに行きました。フェスタというのがどういふものか想像つかなかったのですが、広場に特設されたディスコでは村の子どもからお年寄りまでが大音量の中で踊っていて、私も生まれて初めて踊ってしまいました。パタッグのホストファミリーが再会の時に泣いて喜んでくれたのが嬉しかった。パタッグは自然がいっぱいで人も温かく、本当に癒される場所だとつくづく感じました。今度は LOOB スタッフの方と釣り行ったりビーチに行ったりする予定で楽しみにしています！

◇介護士学校での授業はどうですか？

——介護士学校でのクラスはまだ始まったばかりですが、来ている生徒さんは皆、日本行きを望んでおり日本語学習の熱意には圧倒されました。年齢は21歳から35歳くらいと、私より年上の方が多いですが、やはり自分の生徒さんというのは可愛くて仕方ないです。一般クラスでもそうでしたが、フィリピン人は明るく反応が良いのでそういう雰囲気にも助けられながら授業をしています。フィリピン人にとって日本という国が身近になるようにがんばります！！

編集後記：

今回のニュースレター (Vol2) いかがでしたか？当地は3～5月が一番暑い乾期で、エアコンを付ける人が多いためか頻繁に停電です。そんな状況で完成が遅れてしまいました、というのはただの言い訳ですね……。ともかく、最後まで目を通して頂き有難うございました。このニュースレターで LOOB の活動の様子を身近に感じていただければ幸いです。さて今度の発行はいつやら！？期待せずに気長にお待ちいただければと思います。今後ともご支援よろしくお祈りします。(小林)